

令和7年度 県立波崎柳川高等学校自己評価表

目指す 学校像	生徒が地域とともに「挑戦できる・可能性を伸ばせる・成長できる」学校～笑顔で ちゃれんじ・やりきる・おもしろいやり～			
三つの方針		具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	(長期的目標) ～未来へつなぐ～ ○仲間とともに高め合い、さらなる成長を目指す力 ○夢や目標の実現に向け、最後までやり抜く力 ○他者や地域に貢献し、自らの思いを社会に発信する力		
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) ～可能性を拓げる～ ○自分を信じ、努力を重ねて挑戦する姿勢 ○夢や目標を見出し、主体的に行動する力 ○仲間と協力し、互いを尊重しながらともに成長する力		
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) ～自分を築く～ ○自分に誇りを持ち、自信を育む姿勢 ○何事にも一生懸命取り組み、学びの基礎を固める姿勢 ○身近な人や社会のためにできることを考え、行動する力		
昨年度の成果と課題		重点項目	重 点 目 標	達成 状況
進路支援については、定期的な進路ガイダンスの実施に加え、日常的な進路相談等により、生徒の進路に対する意識、意欲が高まった。進学、就職ともに、多くの生徒（40 名中 35 名：88%）が目標を達成できた。保護者向け学校評価アンケートの結果も、「本校に入学させて良かった」との回答が約 90%であり、自己実現のために生徒が教職員ともに取り組む姿勢が見られ、良好な人間関係を構築している成果の現れであると思われる。今後も生徒ファーストの精神、生徒に寄り添った日常的な学習活動や進路支援、さらに特別活動の充実をはかっていきたい。 神栖市と市内三高校の包括連携協定も 6 年目を迎え、新たな取り組みに挑戦するとともに、異校種間交流をさらに深める。また、開かれた学校づくりを推進するために、教育活動についての情報発信を積極的に行い、信頼感と連携・協働の意識を高めていきたい。		学習指導	① 基礎的・基本的な知識の定着と、相互の価値観を尊重しながら協働的に学ぶ力の育成 ② 主体的・対話的な学びを深め、思考力と発信力を養い、課題解決に向けた実践力を高める	B
		授業改善	③ 生徒の授業満足度 80%以上（KPI）を目指し、わかりやすき工夫された授業づくりを推進する	A
		特別活動・部活動	④ 主体性を育む学校行事、生徒会活動、常任委員会活動の充実 ⑤ キャリアパスポートと教育活動・行事との効果的な関連づけの実践 ⑥ 健康と安全を意識した、持続可能な生活・生涯スポーツにつながる活動の推進	B
		生徒支援	⑦ 基本的生活習慣と時間意識、TPOを踏まえたマナー・身だしなみの定着 ⑧ 校内外での交通安全指導の強化と、命の大切さ・規範意識の向上 ⑨ SNSを含む情報機器の適切な活用と情報モラルの向上	B
		進路支援	⑩ キャリア教育の充実・ICT活用の推進、振り返りと課題設定を通じた学習習慣の定着 ⑪ ゼミ・資格取得支援体制の充実 ⑫ 進路相談体制の強化・改善 ⑬ 企業・大学等との連携プログラムの充実	B
		地域・関連機関との連携	⑭ 地域・関係機関（神栖市三校 包括連携協定・PTA・同窓会）との連携による教育活動の活性化 ⑮ 地元学校（柳川小、波崎三中、神栖三中）・企業との交流・協働を通じた地域共育の推進 ⑯ 学校説明会の充実と教育活動の積極的な広報	A
		働き方改革	⑰ 全職員の連携による業務の効率化、行事や業務の見直しと重点化 ⑱ ワーク・ライフ・バランスの意識づけと定着	B

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価		次年度（学期）への主な課題
教務	授業が楽しいと回答する生徒 80%	校内授業研修期間を設定し、指導方法を工夫して生徒が学びやすい授業環境をつくる。①②③⑤	B	B	空き教室の有効利用方法 定期考査実施の検討 学習支援校内研修の実施 校内外掲示のUD化
		ユニバーサルデザインを意識した授業づくりをする。②③④⑩	B		
	学校が楽しいと回答する生徒 80%	行事や各活動を探究活動と紐づけし、目標に向かう態度を育成できる活動をする。②④⑫	B		
		行事や各活動へ主体的に取り組めるような掲示などを工夫する。②④	B		
進路支援	自主学習の習慣化により学ぶ力の向上・伸長を図る。	朝学習や週末課題の実施により、自主学習の習慣化を図る。①②	C	B	リクルート進路プログラムや 進路相談会有効であったので、 学習意欲の向上のためにも、生 徒のキャリアデザイン（進路意 識）の早期決定を支援したい。 具体的な進路目標に応じたゼ ミ（英国数・小論文・面接・検 定対策等）を教科・学年と連携 して実施していきたい。
		I C Tの活用や計画的・継続的な単元テストの実施により学ぶ力の向上・伸長を図る。②③⑩⑫	B		
		探究活動にN I Eを組み込み、言語活動を実践して思考力・表現力の向上・伸長を図る。①②⑫⑬	A		
	キャリアデザイン能力と学習の振り返りを強化する。	全教科で目的と振り返りを意識した授業を実践し、思考力・表現力の向上を目指す。①②⑩⑫⑬	B		
		自主学習の習慣化により学力・知識の定着と伸長を図るとともに、ゼミの参加や検定への挑戦を促す。①⑩⑪⑫	B		
	3 学年の最終進路決定 100% 2 学年末までに希望進路決定 90% 1 学年末までに進路希望決定 80%	生徒の意識を高める進路ガイダンスや企業説明会等を実施する。⑩⑫⑬	A		
		個々の希望や適性を考慮して、必要に応じて合理的配慮を意識した指導・支援を行う。②⑫	B		
生徒支援	基本的生活習慣を確立させる。	あいさつを励行し、正しい服装や礼儀作法を身につけ、品位ある生活を送れるようにする。⑦	B	B	生徒への指導に関する職員間の 意識の差が課題。生徒に伝わる伝 え方や指導の方法を今後も研究 していく。生徒が自主的に正しい 判断がとれるよう指導をしてい く。
		遅刻防止・始業時間遵守に努め、時間を守る習慣をつけさせる。⑦	B		
	健康・安全に対する意識の向上。	病気や交通事故の恐ろしさを理解させ、自己の身体と健康に関心を持たせる。⑧	A		
		登下校指導を強化し、交通事故や問題行動の未然防止に努める。⑧	B		
	携帯電話の使用マナー向上。	校則の理解を深めさせ、節度ある使用態度を育成する。⑦⑨	B		
		外部講師を招き、SNS に関するマナー・トラブルを理解させる。⑦⑨	A		
保健厚生	組織的な学校環境の整備を図る	全校清掃を実施し、組織的な環境美化活動を実践する。⑪	A	B	火災・避難経路確認訓練、職員対 象 AED 訓練を実施する。 生徒の心身の発達に寄与する生活 環境を整える。 日々の全校清掃で、校舎内のより 一層の美化に努める。
		生徒委員会活動とリンクした安全指導、安全管理を行い、保健安全に対する意識を高める。⑧	A		
	健康に対する意識の高揚を図る。	全校清掃をはじめ生徒との協働を通し心身の健康の向上を目指す。⑦	A		
		健康の維持増進のための適切なデジタル機器使用について指導啓発する。⑨	C		
	交通安全・防災意識を高める指導をする。	交通安全指導、不審者侵入を想定した避難訓練を実施し、生徒・教職員が想定外の事態に適切な判断・具体的な行動がとれるようにする。⑧⑮	C		
渉外広報	学習環境充実のために地域連携を促進する。	「地域に寄り添う P T A」をモットーとして地域貢献に努める。⑭⑮	B	B	今年度新入生保護者からの P T A 本部役員への参加がなかった。途切 れることなく、役員になっていただ けるような手立てを講じていかな くはならない。
		各団体と協調しながら創立四十周年記念事業を成功させる。⑦⑭⑮	A		
	保護者・教職員とともに参加型の活動を促進する。	校内行事や企画を P T Aとともに推進していく⑭⑮	B		
		保護者との協働、相互理解によりコミュニケーションの向上をはかる。⑭⑮	B		
	P T A広報誌の充実を図る。	学校からの情報発信を高めるとともに、広報誌の質的向上をはかる。⑮⑯	B		
特別活動	キャリアパスポートを活用する。	キャリアパスポートを活用することで、自己肯定感を高め、学習や生活への意欲を高める。②⑤	B	B	生徒主体の行事運営が課題。バ ス通学の生徒も多い中で、行事 の計画や準備にあたる時間の確 保が難しい。
	生徒主体の行事運営を充実させる。	生徒一人一人に役割を持たせることによって、生徒主体の行事運営を促進する。②④	B		
	部活動の活性化を図る。	地域のスポーツ人材と連携し、効果的な活動を目指した指導体制を整備する。④⑭⑮⑰	B		

評価基準 A：大変良くできた B：良くできた C：普通 D：やや不十分 E：不十分

1 学年	基本的生活習慣の確立と規範意識の向上を図る。	身なりを整えさせる。時間を守らせる。⑦⑧	C	B	賞賛よりも注意になりがちで、全体的には声をかけても習慣化には至らないことが多かった。部活動や生徒会などもそうであるが、声をかけるだけでは意味がない。きちんと意識を向けさせることが大切であり、そのための十分な支援を担任を中心に講じる必要がある。
		挨拶・返事をしっかりとさせる。欠席、遅刻、早退をしないようにさせる。⑦⑧	C		
	部活動、生徒会活動、資格取得、ボランティアへの参加を促す。	タイミングよく声掛けを行う。④⑥	B		
		継続して応援する。④⑥	A		
	家庭学習の習慣化により、基礎学力の定着と伸長を図る。	互いが教え合う場面を多くし、授業の理解が深まるよう促す。①②	B		
		宿題を必ずやらせるなど、家庭学習を習慣化させる。①②	C		
2 学年	人間関係構築能力を高める。	自ら笑顔であいさつをする。④⑦	B	B	入学から2年間実践してきた進路実現のための活動や指導を生徒一人一人の自己実現へとつなげることが目標。 ここからは、生徒個々の希望に柔軟に対応し、きめ細やかな指導を行うことで生徒一人一人の能力を伸ばしていく。
		学校生活の中で、状況に応じた声掛けをする態度を育て、コミュニケーション能力を高める。⑦	B		
	進路目標を確立し、主体的に行動する態度を身に付ける。	自分の強みを見つけ、そこから将来の目標を見つける態度を養う。①②⑩	B		
		自分の強みを磨く態度を養い、将来の目標を実現する行動を積み重ねる生徒を育てる。①②③⑩	B		
	仲間と協力し、互いを尊重しながら共に成長する態度を身に着ける。	自ら声をかける主体性を養う。仲間をつくり共に課題にチャレンジする生徒を育てる。④⑤⑥	B		
		HR活動・部活動・学校行事で仲間と協力し、課題を解決する生徒を育てる。④⑤⑥	B		
3 学年	TPOをわきまえ規律ある行動を実践する。	時間を意識し、自律的に行動する生徒を育てる。①③⑦	B	B	進路実現のためには、根気強く学習や部活動に取り組んだり、ボランティア活動をしたりするなど学校内外での自主的な活動が大切である。学力を伸ばすことはもちろん大事だが、コミュニケーション力を身に付ける必要がある。
		TPOに応じた服装や態度を実践する生徒を育てる。⑧⑨	B		
	進路実現を目指し自ら探究する態度を育てる。	授業を基にして、一人一人が自らの学びを深める。①②⑩	B		
		自らの長所や適性を理解し、積極的に行動することで進路実現につなげる。⑩⑫⑬	B		
	学校行事やボランティア活動を通して社会性を身に付ける。	HR活動・部活動・学校行事に積極的に参加し、自己の役割を果たす生徒を育てる。④⑤	A		
		資格取得やボランティア活動に積極的に挑戦し、自己を活かす生徒を育てる。⑩⑪	B		
国語	基礎的・基本的知識を身に付けさせる。	漢字検定を督促して、授業でも関連指導を行い、漢字検定準2級程度の読み書き能力を養う。①⑪	D	C	ダブルクリアを日常的に活用し、漢字の定着、漢字検定への挑戦を促す。自分の意見を文章化する力を育む。
		毎時間記入する振り返りカードにおいて、接続詞を用いて論理的な文章を書く力を身に付けさせる。②	B		
	文章読解力を養う。	生徒の実態に合った授業実践と改善を行い、文章を的確に理解し自らの意見を持てる力を養う。①②	B		
地理 歴史 公民	基礎・基本の定着と歴史的思考力・地理的判断力の向上を図る。	生徒の実態や場面に応じた授業実践とその改善を図り、基礎的・基本的事項の定着を図る。①②③	B	B	担当者によるICTのスキルの違いから、授業での活用に差が生じた。ICTをプレゼンテーション資料の作成以外に使う方策を講じたい。NIEを活用した授業をさらに展開していきたい。
		ICTやGISを活用して時間・空間を意識して諸課題を多角的・多面的に考察し、表現する力を養う。①②⑩	B		
	基礎・基本の定着と現代の諸課題を主体的に考察・判断する力の育成を図る。	生徒の実態や場面に応じた授業実践とその改善を図り、基礎的・基本的事項の定着を図る。①②③	B		
		ICTやNIEを活用し、社会に生きる一市民として現代の諸課題を自分事として考察する力を養う。①②⑩	B		
数学	基礎・基本の定着を図る。	電子教科書と板書を併用して、生徒の実態に合った授業を実践し授業改善を図る。①③⑩	B	B	学習内容の理解を深めるために、グループワークやプリント学習など工夫してきた。計算を苦手としている生徒が多いので計算練習を沢山する必要がある。
		小テストなどで理解度を確認できるようにし、基礎・基本の計算力、応用力を段階的に高める。①③⑩			
	主体的に問題を解決する力を養う。	グループワークを行い、既習事項をもとに、問題を解く道筋を考えられるよう支援する。①②	C		
		生徒に数学検定の受験を勧め、対策ゼミを行い、合格率を上げる。①⑪			
理科	基礎・基本となる科学的知識・技能を定着させる。	板書やICT教材を工夫し、生徒の実態に合った授業を展開する。①③⑩	B	B	時間割の変更が多く、実験や探究活動に時間を割くことが難しかった。実験は映像で観察することが多かったので、実際に身で見て観察できるような実験を取り入れていきたい。
		小テストや振り返りシートなどで生徒自ら理解度を確認する機会を設け、定着につなげる。①②⑩			
	身近な事物・現象に興味をもち、根拠を基に考え・説明する力を養う。	実験を的確に実施し、日常生活と関連させながら科学的現象を体験させることで、生徒の授業満足度を80%以上にする。①②③	B		
		口頭発表やプレゼンテーション・報告書作成など、発表する機会を積極的に設ける。①②③	B		

保健 体育	生涯にわたって運動する習慣を身に付けさせる。	健康・安全に配慮し、主体的に学習に取り組む態度を養う学習活動を工夫改善する。②⑥	A	A	各単元において、目標を十分に達成することができた。生徒の取り組みもよく、安全な活動が展開できている。
		スキルテスト等を行い、運動技能の習得と課題解決に向けた姿勢を養う内容を増やす。①②③	A		
	自らの健康を維持し、体力向上の意識を育てる。	健康に関する個人の意志決定や行動選択が適切にとれるように授業を進める。②③⑥	A		
		運動に関する理論を習得させ、健康の保持増進と体力の向上を目指す運動が継続できるようにする。①⑥	A		
芸術	意欲的に芸術活動に取り組む態度を身に付けさせる。	基本的技術を身に付けさせる。①②	B	B	より体験的な活動を増やし、楽しく音楽に係わる態度を育て、興味・関心を持たせられるような授業展開を工夫する。
		様々な表現方法を体験させる。①②③	B		
	感性を高め、創造的な表現をする能力を養う。	内容に応じた表現の工夫をさせ、創造力を高める。①②③	B		
		芸術についての理解を深め、主体的な学習態度を身に付けさせる。①②	B		
家庭	家庭に関する基礎的な知識と技術を習得させる。	安心安全・衛生面に配慮し教具や実習室を整備し、主体的な学びができるよう活動を工夫する。①②③	A	B	実習などを通し、身に着けた知識や技術を日常生活において実践していける力を養う。
		ICTを活用し視覚からの情報を得ることで確認・理解を深め実践する。①②⑩	B		
	家族や地域の一員として主体的に行動できる力を養う。	授業の学びを活かしてホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動を実践し、家庭や地域生活の課題を解決できる能力を身につける。①②⑦	B		
英語	基礎的な英語の知識を習得させる。	生徒の実態に応じた教材を作成し、授業において効果的に活用する。①②③	B	B	個別最適な学びをより意識して授業を展開する。 パフォーマンステストを、単元ごとに実施するように促す。
		生徒の進路実現に向け英検受験を奨励し、対策ゼミや個別指導の機会を設け合格率を上げる。⑩⑪	B		
	英語によるコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	授業における生徒の言語活動の機会を増やす。授業で定期的にプレゼンテーションをおこない、日頃の言語活動の成果を発表する場を設けることで、生徒の発信力向上や成功体験に繋げる。①②③⑩	A		
情報	問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する。	伝えたい情報を相手の状況などを踏まえ、効率的に伝えるための表現力を身に付ける。①②③	C	B	情報技術を活用した効果的な表現方法について学習させる。 情報モラルを身に付ける。
		目的に応じたモデル化やシミュレーションを適切に行い、問題の適切な解決方法を考える。①②③⑩	C		
	情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育成する。	情報社会における個人の果たす役割や責任、情報モラルなどを身に付ける。①⑦⑨⑩	B		
		情報と情報技術の適切かつ効果的な活用を身に付けられるよう授業改善を図る。①⑦⑨⑩	B		

※ 評価基準 A：大変良くてきた B：良くてきた C：普通 D：やや不十分 E：不十分

※ 評価基準 A：大変良くてきた B：良くてきた C：普通 D：やや不十分 E：不十分